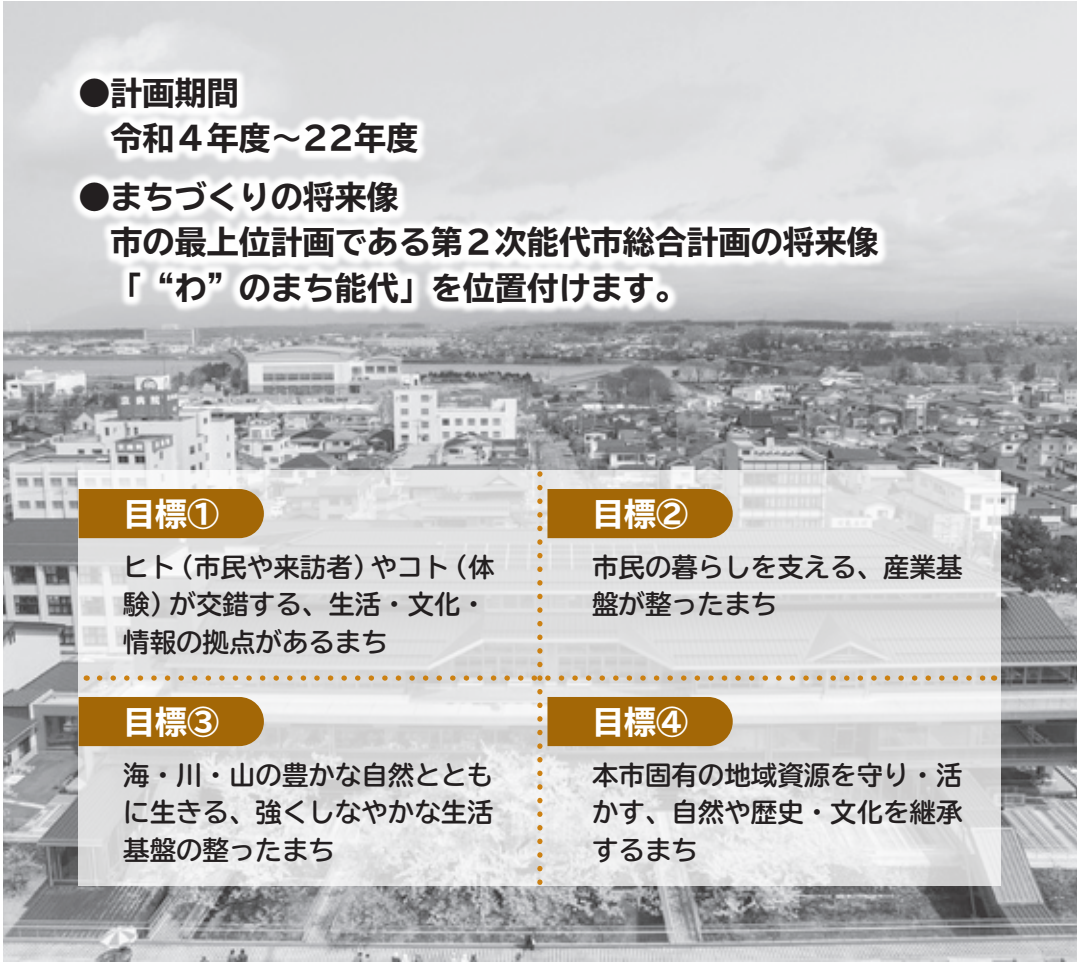
20年後の能代を見据えたまちづくりの指針

都市計画マスタープラン・立地適正化計画を策定



能代市都市計画マスタープラン・能代市立地適正化計画を策定しました。これは市民アンケート、地域別ワークショップ、策定委員会などにより、多くの意見をいただきながら市民の皆さんと一緒に考えた、20年後を見据えたまちづくりの方向性を示す計画です。詳細は、市ホームページで確認できます。

問合せ　都市整備課☎89・2197

将来都市構造

将来都市構造では、市全域を対象とし、将来の望ましい都市の構成を**「エリア」「拠点」「軸」**によって表現しています。市では、人口減少・高齢化が進行する中にあっても、持続可能な都市を構築するため、現在の配置を基本としながら、都市機能が集積する各地域の拠点を中心に、都市機能や居住を維持し、または積極的な誘導・集積を進めるとともに、各地域の資源を活用した連携・交流を促進することで、「集約連携型の都市構造」を目指していきます。

●エリア形成の方針

「エリア」は、土地利用の考えの基礎となるもので、利用目的別に市街地エリア、誘導促進エリア、田園・集落エリア、自然・森林エリア、米代川エリアを位置付け、それぞれの利用目的に則した土地利用の規制・誘導を進めていきます。

●拠点形成の方針

「拠点」は、人口や機能の分布状況、市街地形成の経緯などから、市全体の視点で個別にまちづくりを考えていく必要がある地区や集落などのまとまりであり、中心拠点（能代・二ツ井）、地区拠点、集落拠点を位置付けています。

●軸の形成の方針

「軸」は骨格的な道路や公共交通などで、市内各地域や隣接都市との交流・連携に資するものであり、広域連携軸、地域連携軸、基幹公共交通軸を位置付けています。